



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
1月の休館日：1(金祝)～4月
12(火)、18(月)、25(月)

1月11日(月祝) 14:00～ ニューイヤー・ビッグバンド・ジャズ コンサート

◎関西の一流ミュージシャンが彦根に大集合！
グレン・ミラー、ベニー・グッドマン、デューク・
エリントンなどのナンバーでビッグバンド・ジャズ
の魅力をつつぱりとお届けします。
【出演】京都コンポーザーズ・ジャズ・オーケストラ、
片山恵依子、南亜希 (Vo)

自由 一般1,500円 大学生以下500円



2月6日(土) 18:30～ 金亀亭第5回落語ライブ 柳家さん喬 喬太郎 親子会

指定 3,800円

2月13日(土) 14:00～ エコーメモリアル・チェンバー オーケストラ演奏会

【曲目】チャイコフスキー作曲 弦楽セレナード
ハ長調Op.48 ほか

自由 一般2,500円 高校生以下2,000円

2月21日(日) 14:00～ 子どものためのサロンコンサート第2回 「Piano × Piano」

◎第1回のコンサートで募集したリクエスト曲の中
から演奏します。

自由 大人500円 中学生以下無料

3月14日(日) 14:00～ 大阪音楽大学出張講座 オペラ物知り講座inひこね vol.3

◎今回は「蝶々夫人」をわかりやすく紹介します。

自由 前売1,500円(当日2,000円)

3月15日(月) 19:00～ ザ・ジェイド春コンサート2010

◎オペラ界の4大スターによる奇跡のボーカル・グル
ープが歌謡曲の名曲から、叙情歌、オリジナル曲ま
でを歌いあげます！

指定 S席5,000円 A席4,000円

平成21年12月1日(火)よりインターネットでのチケット
購入が可能になりました。アクセス先は、<http://bunpla.jp/>
クレジットカードでの決済や、セブンイレブンで引き
取ることができます。

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

彦根城博物館

1月の休館日はありません。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

1月1日(金祝)～2月3日(水)

「竜虎一寅年にちなんで」

今年は寅年、勇壮な組合せとしておなじみの竜と
虎で、新年の幕開けを寿ぎます。



▲猛虎図罫

ギャラリートーク

「竜虎一寅年にちなんで」

1月9日(土) 14:00～15:00

解説：本館学芸員 降矢 淳子

※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂
にお集まりください。

観覧料が必要です

直弼のころ

幕末の大老、井伊直弼
(1815～1860)は、国政
を担う政治家として知ら
れる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむ
きに取り組む、文化人としての面をあわせ持って
いました。このコーナーでは、直弼ゆかりのさま
ざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

1月1日(金祝)～2月2日(火)

藻塩之煙

熱心に勉強した国学や和歌の勉強において、古
事や古人の和歌などを書き記した覚書。



テーマ展

常設展の
名品



▲竜立物



▲虎立物

想像上の生き物の竜と、元来、日
本に生息しない虎は、古来より勇猛
な動物とイメージされ、武家にふさ
わしいものとして好まれました。
教養として武家が身につけるもの
の一つである能に「竜虎」という演
目があります。作者の観世信光(1
435～1516)は、観世座の大
鼓役者であると同時に、能作家とし
ても活躍した人物です。信光は、そ
れまでの歌舞を中心とした能に変化
を加え、一般大衆の支持が得られる
よう、物語性に富み、見た目に分か
りやすく華やかな作品を生み出しま
した。「竜虎」もその一つで、竜と虎
の役柄はそれぞれ、竜の形をした冠
り物の竜戴と虎の形をした虎戴を頭
に被りました。彦根城博物館所蔵の
井伊家伝来資料には、冠に取り付け
る立物の竜と虎が伝来しています。
この立物は、革を竜と虎の形に切
り抜いて彩色したもので、頭上から
はみ出すほどの大きさをしています。
体をうねらせる竜と足を跳ね上げる
虎には躍動感があり、演能のときは

一段と際立ちました。
能の「竜虎」の内容は次のとおり
です。僧侶が中国の仏跡を尋ねたあ
る日のこと、竹林に黒雲が覆って
いる不気味な光景を目にします。通り
がかつた老いた樵に理由を尋ねる
と、ちよと竜虎の戦いが始まるこ
ころなので、見物をするならば竹林
のそばの岩かげに身を隠しなさい
と言つて、姿を消しました。やが
て、竜と虎が現れて壮烈な戦いを見
せた後、竜は雲中に昇り虎は虎穴に
帰っていきました。



▲竜戴

日本では、室町時代後期より、雲
間の竜と風の中の虎が対峙するこ
うな構図の竜虎図が盛んに描かれ
るようになりました。優劣のつけ
にくい強豪同士が勝負することを
竜虎相搏つといいますが、竜虎図
はまさにその様子を描いたものだ
とも言えるでしょう。能の「竜虎」
も、雲間の竜と風の中の虎が対峙す
る構図を取り入れており、竜虎図に
影響を受けた信光が劇化したと考
えられています。
信光がこの作品を生み出した戦
国時代は、戦いが続いて政治や経済
が混乱し、文化も著しく衰退してい
ました。作品を通して、竜虎の争い
には何の意味もないことを表現す
ることで、人間の争いもまた同じで
無意味だということ伝えられた
と言われています。信光は、竜と虎
に勇猛さだけでなく、ただけし
く戦つことの空しさを見出し、力の
あるものがぶつかるといふ世の儚
さと哀れさを表現したのでしょう。
(彦根城博物館学芸員 降矢淳子)

竜と虎の立物および竜戴は、
彦根城博物館テーマ展「竜虎一
寅年にちなんで」(1月1日(金祝)
～2月3日(水)・会期中無休)で
展示します。

能に見る竜虎

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



第161回